

日本 K-ABC アセスメント学会会員各位

K-ABC 中央事例研究会のご案内

陽春の候、皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
今年度第1回中央事例研究会を下記の通り開催いたします。
KABC - II の検査結果の分析や解釈、支援への活用についての研修会です。
ぜひご参加下さい。

記

日 時 : 平成 30 年 5 月 26 日(土)14:30~16:30

会 場 : 『アトラスタワー 茗荷谷』 3階 図書文化社 301大会議室

発表者 : 結城亜美先生 (天童市教育委員会)

テーマ : ADHD と自閉症スペクトラム障害の疑いがあり読み書きに困難を示す小1男児への読み書きの指導方針

概 要:

対象児は、特殊音節を含む平仮名の単語・カタカナ・漢字の読み書きにおいて困難性を示していた。また、音読の際一文字一文字拾い読みをしている等、文章の読みについても困難性があった。

そこで、対象児の認知特性を知るために KABC-II を実施した。その結果、「同時尺度」が高く、視覚情報の処理が得意で、複数の情報をまとめて全体として捉えたり、全体を踏まえて処理したりすることが強いことが推測された。反対に、「継次尺度」が低く、時間軸に沿って順を追って処理することが弱いことがわかった。このことから、文章を読む際に、一文一文上から下に順番通りに読んでいくことが苦手であることが関連していると推測された。それに加えて、この低さから対象児は短期記憶にも弱さがあるということが推測された。そのため、授業の内容をその場で記憶し、定着させることが難しく、このことが学習における困難さを生じさせていると考えられた。したがって、読み書きの学習において、対象児の得意な同時処理型指導方略を用いて、視覚情報を有効に活用したり、即時に正誤のフィードバックを行なって記憶定着に結びつけたりすることなどを指導方針として学校に提出することにした。

※ 会場へのアクセス (地下鉄茗荷谷駅徒歩1分)

- ①茗荷谷駅改札を春日通り側に出る。
- ②茗荷谷駅を背に左側のベージュ色の高層ビルの3階です。(春日通りに面したビル)
- ③春日通り側から1F ローソン横の屋外エスカレーターまたは階段を上がり、屋内エレベーター(1か所)で3階までお越し下さい。

★お知り合いの方で、メール配信が可能の方がいらっしゃいましたら、アドレスを事務局にご連絡くださるようお勧め下さい。(携帯のアドレスは不可)

次回から中央事例研究会開催のお知らせをメールにて行わせて頂きます。

(E-mail:honbu-jimu@k-abc.jp)

尚、この事例研究会は学校心理士資格更新B1のポイントとなるよう申請中です。

また本研究会の聴講証明書を発行致しますので、当日お申し出下さい。

日本 K-ABC アセスメント学会中央事例研究会担当 小野純平 吉村亜紀
〒112-0002 東京都文京区小石川五郵便局留 Tel/Fax 03-3944-1390